



第28回日本骨粗鬆症学会

The 28th Annual Meeting of the Japanese Osteoporosis Society

ランチョンセミナー 16

日時

2026年 9月 12日(土) 12:15～13:15

会場

第8会場

(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 展示ホール A-1)

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

医療従事者が知っておくべき骨粗鬆症治療の基盤 ービタミンDとカルシウム代謝の実践理解ー

座長

そうえん整形外科 骨粗しょう症・リウマチクリニック
院長

宗圓 聡 先生

演者

大阪大学大学院 医学系研究科 器官制御外科学 整形外科
准教授

蛸名 耕介 先生

本セミナーは、日本整形外科学会教育研修会の単位が取得できます。

認定単位：日本整形外科学会 教育研修単位 (N) 1単位 必須分野：[4] 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む)

ランチョンセミナーは事前登録制となります。各日整理券は先着順として予備がある場合のみ当日の朝に配布いたします。

配布枚数には限りがございます。なくなり次第配布を終了させていただきますので予めご了承ください。

詳細は学術大会ホームページならびにポケットプログラムでご確認をお願いいたします。

【配布開始時間】9月12日(土) 8:30～ 【配布場所】朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2Fアトリウム「総合案内」

共 催 第28回骨粗鬆症学会/東和薬品株式会社

医療従事者が知っておくべき骨粗鬆症治療の基盤 ービタミンDとカルシウム代謝の実践理解ー

大阪大学大学院 医学系研究科器官制御外科学 整形外科 准教授

蛸名 耕介 先生

本邦における骨粗鬆症の潜在患者数は約1600万人と推定され、それに伴う大腿骨近位部骨折の発生件数は2017年度で年間193,400件と、いずれも増加傾向にある。本邦では様々な骨代謝調整薬・骨吸収抑制薬・骨形成促進薬などが使用可能となっているが、これらの骨粗鬆症治療薬の有効性の大前提となっているのはビタミンD（VD）とカルシウム（Ca）の適切な充足である。骨粗鬆症治療における骨密度の増加には、VDやCaの充足による骨石灰化の促進や、VDや骨への力学刺激による骨モデリング（骨吸収を伴わない骨形成）が必要である。一方でVDやCaが不足すると副甲状腺ホルモンの産生が亢進し、骨吸収を亢進させる。以上よりVDを充足することは骨恒常性維持と骨粗鬆症治療において必須の要素と考えられるが、本邦においては約80%以上でVDが不足しているとの報告がある。一方で腎機能低下例における過剰な活性型VDの充足は高Ca血症や尿路結石につながる可能性もあり、適切な用量調節や定期的な検査が必要と考えられる。現在の超高齢化社会において、長期的視点に立った安全かつ効果的な骨粗鬆症治療計画のためには最新情報のupdateと、それに基づいた論理的な思考が必要とされている。本公演では骨代謝の基本的考え方と、最新の骨粗鬆症治療薬の特徴・併用療法などを踏まえた骨粗鬆症治療の最適化について、最新のエビデンスを供覧しながら概説する。